

最優秀賞
さいゆうしゅうしょう

高校生区分
こうこうせいくぶん

公平の当然
こうへいとうぜん

沖縄県立豊見城高等学校
おきなわけんりつとみしろこうとうがっこう

三年
さんねん

宮城 麻央
みやぎ まお

障害や疾患を抱えている人が少なくないこの世の中で、全ての人が生きやすいようにするにはどうすれば良いのだろうか。

私はバリアフリー化をもっと進めるべきだと思う。バリアフリーとは、高齢者や障害を抱えている人が暮らしていく中で物理的な障害や、精神的な障壁を除去することである。今の世の中では、かなり高齢者や障害を抱えている人へのバリアフリー

ー化が進められている。例えば、視覚に障害を抱えている人のために点字ブロックや音声信号機を設置しているところもある。また、聴覚に障害を抱えている人のための字幕や手話、高齢者や身体が不自由な人のためのスロープやエスカレーター、エレベーターなど、沢山のバリアフリー設備がある。さらに、バリアフリー新法により、公共施設ではバリアフリーの設置が義務づけられている。私も先天性の視覚障害があるため、音声信号機や階段の手すりなど、バリアフリー化により、色々な場合で助けられている。

一方で、現状としてやはり、バリアフリー化の推進においてまだ完璧とはいえない部分もある。例えば、インターネットが普及している現代社会で、コンピュータの操作は視覚に障害を抱えている人からすると、文字や表図が細かく、タイピングも

時間がかかるため、少しやりづらい面がある。また、自動車の運転免許を取得するのもかなり困難な状況にある。近年は、徐々に自動運転車の開発は進んでいるが、まだ広く普及できていない。また、バリアフリー化の技術を進展させ、その設備を利用するには多額の費用がかかる。

そして何よりの問題は、障害を抱えている人に対しての人々の心理的な障壁である。私も幼い頃に、障害を抱えている人への支援が特別扱いのように感じられたのか、それとも異端者のように感じられたのか、よくからかわれたり、良くない言葉をかけられた過去がある。どんなに世界が物理的にバリアフリー化を進めていても、高齢者や障害を抱えている人への態度や対応が冷たい人は少なくともいる現状である。しかし、理解をしようとする努力し、受け入れて手を差し伸べてくれる優しい人も

必ずいる。私もそのような人達に沢山助けられてきた。例えば学校で、黒板やプリントに書かれている文字が見えない時、友人が大きすぎるくらいの文字で書いて見せてくれたり、階段の段差が見えなくて降りづらかった時、転ばないように支えてくれたりした。また、先生方もテストや授業の時などに、タブレットの使用許可や、見やすいように拡大コピーをしてくれて、柔軟に対応してくれた。

おそらく世の中の大半の人は、高齢者や障害を抱えている人への適切な対応の仕方が分からなかったりするのだろう。特に日本人は相手に対して遠慮がちになってしまいう傾向にあり、何かしようとしても上手く行動を起こせないという国民性であるということも影響しているのかもしれない。また、障害を抱えていることに気づかず、当事者が困難に感じていることを当た

り前にできるかのように要求してしまっているということもある。例えば、眼鏡をかけていたり、杖をついたりしていれば気づきやすいため、多少は配慮をすることができるかもしれない。しかし、補聴器はイヤホンに見えたり、小さい器具のため、つけているのが分からなかったり、少し気づきにくいことがあると思われる。そのせいで、何度問いかけても聞こえづらくて上手く応えられず、相手を怒らせてしまうこともあると思うし、本人が一番辛く感じているだろう。

さまざまな問題や苦悩があるこの世の中で、全ての人々がもっと暮らしやすく、生きやすくなるようにするには何より、互いを理解し、受け入れていく必要があると思う。確かに障害を抱えている人にどう接すれば良いのか分からないこともあると思う。障害を抱えている私自身もどう接してもらおうことが

正解なのかはよく分からない。だからこそ、互いを理解していつて、どうすれば日々を過ごしやすいのかを考えていき、支え合うことが大切である。そのためには、心のバリアフリー化をもっと進めていき、高齢者や障害を抱えている人だけでなく、全ての人々が心地よく過ごしていけるように、多様性を尊重し、ゆとりある世界を目指していくべきだと思う。